

過去由布市で発生した災害

この冊子の記事情報は、2024年8月現在のものを使用し作成しております。最新の情報は由布市のホームページよりご確認ください。

平成24年7月土石流災害



6月8日の梅雨入りから7月23日梅雨明けまでの46日間に気象庁の湯布院観測所では、1254.5ミリを観測し、平年値575.1ミリの2.18倍となった。7月1日には、由布岳山腹から土石流が発生し、岳本川流域で住家被害が発生。半壊1棟、床上浸水2棟、床下浸水6棟、土砂流入9棟。非住家の床上浸水3棟、土砂流入18棟。気象庁は、大雨災害において最大級の危機感を伝えるため、「これまでに経験をしたことのないような大雨」という表現をこの前線豪雨で用いた。

別府市、由布市で震度6弱、県内全市町村で震度4以上を観測。由布市では、災害関連死3名、重傷者7名、軽傷者5名の人的被害のほか、住家においては、一部損壊2,308棟、半壊141棟、全壊1棟の建物被害や、道路被害60件などが発生した。

令和2年7月豪雨



7月6日から8日にかけて梅雨前線による豪雨により、大分県内では8地点で24時間降水量が250ミリを超え、これまでの記録を超える大雨となった。由布市においても庄内町で1時間の最大雨量が90ミリを超える猛烈な雨を観測し、市内で多くの土砂災害が発生した。花合野川では各所で土石流が発生したことで河川が氾濫した。死者5名、全壊6棟、半壊17棟、一部損壊82棟、床上浸水23棟、床下浸水136棟が発生した。

令和4年9月台風14号



大型で非常に強い台風14号の接近により、湯布院町川西で土砂災害が発生。また、湯布院町宮川が氾濫。警戒レベル5緊急安全確保を発令した。また、本災害は災害救助法(令和3年5月20日改正)による災害発生前の「おそれ適用」となった。全壊3棟、半壊2棟、床上浸水19棟

平成28年4月熊本地震



別府市、由布市で震度6弱、県内全市町村で震度4以上を観測。由布市では、災害関連死3名、重傷者7名、軽傷者5名の人的被害のほか、住家においては、一部損壊2,308棟、半壊141棟、全壊1棟の建物被害や、道路被害60件などが発生した。

令和4年7月鶴見岳・伽藍岳の噴火警戒



伽藍岳付近を震源とする火山性地震が増加したため、噴火警戒レベル2(火口周辺規制)に引き上げられた。国が2007年に警戒レベルの運用を始めて以来、警戒レベル2となるのは県内の山では、初めてであった。

令和5年7月大雨災害



梅雨前線が九州付近に停滞し、湯布院町では1時間降水量が68ミリという観測史上1位の値を更新する大雨となった。6月30日21時頃、湯布院町畑倉地区で土砂災害が発生した。死者1名 床上浸水1棟